

# ボク・ワタシ ミライ（防災学習）

～3. 11世代からの未来予想図～

教科・領域

総合的な学習の時間

光市市立浅江中学校3学年

## キャリア教育の観点

この学習は、「明るい未来づくり」、「充実した人生設計」について考えるものです。最初に、「防災」について学習し、自分を守ること（自助）と他者を意識した考えや行動（共助）について知見を深めていきます。その後で、自分の未来だけでなく、「助ける立場」として自分が周囲に貢献できることや、未来のまちづくりや地域ネットワーク等について、理想と考える未来予想図を設計します。そこで本学習のねらいは次の3つです。

- ① 災害についての正しい知識と、防災の在り方について理解を深める。
- ② 災害時における危険について学習し、日常的な備えや、状況に応じて的確な判断や自らの安全を確保する行動ができるようにする。
- ③ 災害時や災害後に、進んで他の人々や集団・地域安全に役立つことができるようにする。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】

## 単元構成表

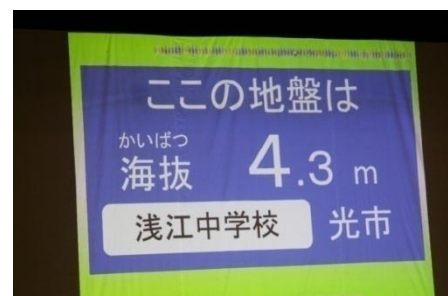
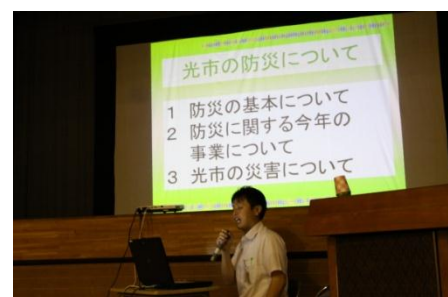
	時数	学習活動	活動内容
1	1	オリエンテーション	・東日本大震災による「被災地の現状」について知り、これから学習の目的や内容を理解する。また、「光市防災交流事業」について説明をうけ、学習の見通しをもつ。
2	2	講話	・専門家から学ぶ ①現地でのボランティア体験記 ②光市の防災への取り組み
3	4	防災学習（基礎的・基本的事項） ・①～④等のような課題を設定し、災害や防災について学ぶ。	①震災の歴史→震災からわかること・学ぶこと ・関東大震災後、阪神淡路大震災後の変化について ②防災・減災について（事前準備） ・光市にはどのような災害が予想されるか ・防災準備（非常食・水分・毛布等 設置場所等） ③被災時、被災後の生活について ・避難場所等での共同生活の中について ・中高生ができる支援活動を考える。 ④道徳…「メリー・ウィドウ・セレクション」 *「防災・減災の取り組み」は「他者を意識した活動」や「思いやりのある心」につながることに気付かせる。

4	2	まとめⅠ（新聞形式）	・これまでの学習を新聞形式でまとめ、「東日本大震災」から現代社会の光と闇（東日本大震災から学ぶべきこと）の部分について考察する。
5	1	発表会Ⅰ（学級内）	・互いの発表をきくことで、防災についての理解を深める。また、さらに調べてみたいことや疑問点を整理し、自分なりの意見をまとめる。
		防災交流事業 「シンサイミライ学校交流会」 （8/8～8/10 宮城県石巻西高等学校）	・代表生徒6名が、東日本大震災で被災地となった宮城県東松島市にある石巻西高等学校を訪れ、「シンサイミライ学校交流会」に参加する。「災間を生きる」をテーマに、被災地の現状を見学したり、ワークショップ形式で壁新聞を作成したり、様々な活動を通して交流を深める。
6	18	まとめⅡ（個人レポート） ・文化祭で展示	・「東日本大震災の事例」について、個人での調査学習を行い、レポートにまとめる。 ・災害について、提言できることを考える。未来に向けての課題やその解決策などを総合的に分析し、自らの現状を見つめ直す活動を展開する。ふるさとや自分が将来住んでいるまちのために必要な要素や自分のできることについて考察する。
7		発表会Ⅱ （文化祭・市内小中学校・ 公民館等） 被災者支援協力、地域貢献活動 の実践	・防災教育交流事業に参加した生徒が代表して発表し、校内生徒および光市内小中学生・光市民へ還元する。（発表・報告会等に参加） ・また、レポートで考えたことを具現化し、自分たちにできること（被災者支援活動や地域貢献活動等）を実践する。

## 導入（講話）

生徒は、東日本大震災当初は、「災害や防災」について興味があり何かしたいという思いはあったが、2年3ヶ月の時間が過ぎ、そういった気持ちが少し冷めているようであった。光市は災害の少ない地域であるという認識から、防災に対する関心も低く、行政やコミュニティが防災についてどのような取組をしているかもよくわかっていない様子であった。

そこで、光市役所「政策企画部財政課管財係」・「防災危機管理課管理係」方を講師に招き、「東日本大震災の復興支援報告」と「光市の防災について」お話をしていただいた。被災地の復興は進んでいるが、そこに存在していたはずの人や物が消えてしまった事実から「当たり前のことが当たり前ができる」幸せを感じた



生徒が多かった。また、防災の「自助・共助・公助」の理論を学ぶことができたとともに、光市の防災対策を知る機会となった。

## 防災交流事業発表

「光市防災交流事業」に6名の生徒を選出し、8/8～8/10に東日本大震災で被災地となった宮城県東松島市にある石巻西高等学校を訪れ、「シンサイミライ学校交流会」に参加した。この交流会では、地元の宮城県の他、兵庫、和歌山、静岡、東京から集まった約120名の中学生・高校生とともに、防災についての研修を行った。

初日は、仮設住宅を訪れ、仮設住宅会長の小野竹一さんから震災当日から今までの出来事を教えていただいた。また、石巻西高等学校の齋藤校長から「避難所生活」や「震災後の被災者の生活」についての講話があった。2日目は、

午前中に被災地である長面湾や大川小学校を訪問し、津波の脅威や爪痕を視察した。午後からは、「波の実験」や「津波のしくみ」などを学んだり、ワークショップ形式で壁新聞を作成したりした。3日目は、津波の被害を受けながらも犠牲者を出さずにすんだ鳴瀬第二中学校を視察した。

実際に、被災者と交流したことや、現地に行かないとわからないことを体験し、「シンサイミライ交流会」で感じたことや学んだことを様々な人に伝える場を設定した。市内の教員・自校の生徒、保護者・地域の方等に報告することで、自分たちでできること（被災者支援活動や地域貢献活動等）を实践するうえで協力体制を整えることができた。

### 「シンサイミライ学校交流会」

8月8日（木）

15：30～ 研修Ⅰ 講話：「今を生きる」

19：00～ 研修Ⅱ 講話：「災害と向きあう」

8月9日（金）

9：00～ 研修Ⅲ 長面湾・大川小学校視察

14：00～ 研修Ⅳ ①自然を科学する

波の実験・津波のしくみ

②ワークショップ

8月10日（土）

9：00～ 研修Ⅴ 鳴瀬第二中学校視察



研修Ⅰ



研修Ⅱ



研修Ⅱ

## 未来予想図の設計

シンサイミライ学校交流会で学んだ成果を、光市の「教育フォーラム」(写真①)や「浅江地区のコミュニティ協議会運営委員会」(写真②)で発表する機会を得た。そして、交流・体験学習のまとめを「防災宣言」とし、また、被災地で誓った想いを「ミライへのメッセージ」として提言することができた。

### 【防 災 宣 言】

- 一 私たちは、過去の経験、災害に関する知識を深め、多くの人々と共有します
- 一 私たちは、想定にとらわれず、自らの判断で行動します
- 一 私たちは、地域の団結と備えによって、被害を最小限にします

### 【ミライへのメッセージ】

「いつかまた必ずやってくる災害で、命を落とす人を0に近づけたい」

大人の意識を変える最も早い方法の一つが、子どもが率先して行動することであるということを経験した。子どもが率先して正しい行動をとれば、大人は必ずバックアップしてくれるのである。自分たちの掲げた「防災宣言」を伝えるだけでなく、実践することをこれからの学習活動にしていきたい。

その1つとして、「浅江地区のコミュニティ協議会運営委員会」で、東日本大震災で犠牲になった子どもたちが天国で寂しくないよう、被災地の宮城県東松島の上空に青い鯉のぼりを掲げる「青い鯉のぼりプロジェクト」への参加を地域に呼びかけた。結果、浅江地区コミュニティ協議会による全面的な協力・支援をいただき、青い鯉のぼり集めが始まった。このような活動を通して、地域の防災意識を高める一助となるとともに、生徒には地域で団結することの価値を再発見してほしいと思う。

防災について基礎的な事項を学習した今、「ボク・ワタシミライ第2章」として、自分の未来はもちろん、「助ける立場」として自分が周囲に貢献できること、未来のまちづくりや地域ネットワーク等について、理想と考える未来予想図を生徒と一緒に考えることとなった。その未来予想図には、きっと、「災害に立ち向かう力」があり、「災害を乗り越える力」があると思われる。「自助、共助、公助」の精神を学んだ生徒が、未来に向けての課題やその解決策などを総合的に分析し、自らの現状を見つめなおす活動を展開したい。そして、自分のもっている生きぬく力を発見させたい。



写真①



写真②



生徒が作成した配布用のチラシ